

公益社団法人浦安青年会議所  
2020年度理事長 高梨 義成

スローガン「至誠通天～次代の開拓者となり飽くなき挑戦を～」

### 【はじめに】

2020年度、「至誠通天～次代の開拓者となり飽くなき挑戦を～」のスローガンを掲げ一年間の運動を展開して参りました。

創設以来、浦安青年会議所は地域ボランティアの先頭に立ち、迫りくる課題に一つ一つ誠実に取り組み、力を合わせて明るい豊かな社会の実現のため運動してきました。また、次代を見据えたまちづくりを展開していくことが必要と考え、至誠通天の心を持って、次代の開拓者であると強く意識し、飽くなき挑戦をしていかなければならないという思いでこのスローガンを掲げました。しかし、新型コロナウイルス感染症による未曾有の危機に直面し、世界中の誰もが働き方や生活環境が根底から覆されていくなかで、次代では無く、目の前の危機をどう乗り越え、私たちがいま出来ること、求められていることに向き合う必要が生まれました。過去の経験を活かせず、当たり前が当たり前ではなくなってしまうなか、メンバーひとり一人が自分の役割を全うし、妥協せず挑戦し続ける気概を持ち続けた結果、いま求められている運動を展開することが出来たと思います。この未曾有の危機の中での経験は必ずやメンバーの成長、そして組織力の向上に繋がっていくことと信じております。

### 【次代を見据えた挑戦を】

「ふるさとうらやす」このように17万人の市民に愛郷心を感じてもらえるよう、浦安青年会議所創立40周年を記念する市民全員を巻き込む事業を企画・構築して参りましたが、パンデミックが宣言され、緊急事態宣言が発令したなかで、大幅に事業計画を修正してきました。その結果として、自宅で楽しみながら浦安を知ることができる「かるた de うらやす 2020」の作成に至りました。まず、7月より、外出自粛を余儀なくされているなかで、浦安らしさのある風景写真や5・7・5の読み句を募集し、浦安出身の写真家、大塚勉氏に昔の浦安について講演をしていただきYouTube動画を配信いたしました。市内のイベントが軒並み中止となっていくなかで広報活動に力を入れた結果、幅広い年齢層の方からご応募いただきました。そして、10月には40周年記念事業第2段として「うらやすの・かるたができたよ・みにおいて かるた de うらやす 2020 作品展示会及び販売会」を新浦安駅前広場にて開催致しました。この完成したかるたを公共施設や市内施設に寄贈させ

ていただき、多くの市民の方々から感謝の言葉をいただくことが出来ました。このかるたを通じて、過去・現在・未来の浦安の歩みを形にしたことにより、今後さらに浦安に魅力を感じ、「ふるさとうらやす」と市民全体の愛郷心が高まっていくことを期待しております。

#### 【心豊かな青少年の育成】

わんぱく相撲浦安場所は今年で32回目を迎える予定でしたが、こちらも中止という判断をさせていただきました。5年間参加し続けてくれた今年6年生になる子供を持つ父兄の方より、何とかやってもらえないかとのご要望もいただき、胸中を察して心苦しかったです。そのようななか、小学6年生を対象にわんぱく相撲に対する想いをスローガンで募集し11月1日にて「想いを繋げわんぱく相撲化粧まわし」と題し、例会を開催致しました。応募数は想定より大幅に下回った結果となってしまいましたが、想いのこもった化粧まわしが以降のわんぱく相撲浦安場所において「憧れの化粧まわし」となることにより、より一層わんぱく力士が増えていき、子どもたちの人間性や社会性がより一層育まれていく事と願います。

#### 【メンバー間の信頼の醸成】

「至誠にして動かざる者は 未だ之れ有らざるなり」この儒教の教えに基づいて信頼性を高めるためにもルール「約束」を守らねばならない。それが組織運営の根幹でもあり、課題点でもありましたが、総務広報委員会によるルールの徹底により、昨年度までとは見違えるほどに、改善が見られました。委員会や理事会が対面ではなく、オンライン上での開催が多くなり、信頼関係や質の高い議論を行っていくと危惧していたなかで、目を追うごとに向上していったと感じております。そして広報活動も日々続けていただけてきました。こちらについてはまだ目に見える成果が出てはいませんが、対面が難しくなっているときだからこそ、継続していく必要があると思います。来年以降、より一層の発信をしていくことにより、強固な組織としてさらに発展していけると期待しております。

#### 【英姿颯爽な人財へ】

新型コロナウイルスの影響により、交流する機会が大幅に減ってしまった一年でした。この状況下で一番悩ましかったことが、交流と会員拡大でした。3月例会として予定していた研修拡大事業や6月に予定していたOB親睦例会も中止を決断し、会員交流すらできなくなっていくなかで、オンラインに慣れるという目的も含めて6月例会として「こんな時こそ距離を縮める！スピーチ交流会」を開催致しました。メンバーの現在の状況などを知ることにも出来、この例会をきっかけとして新しい活動方法が出来上がってきたように感じております。そして、8月例会には「JCプログラム『VMV (V i s i o n M i s s i o n

& Values)』セミナー～青年の運動を止めるな！～を開催し、今一度初心に戻ってJC運動について学び、運動の在り方、目的を再認識いたしました。次年度体制が発足するタイミングで理事長が掲げた所信や委員長方針の意味についてみんなが考える時間を持てたことは、浦安青年会議所にとっても非常に有意義な経験ができました。さらに、9月例会として、「巻き込み型リーダーに学ぶ！ビジョンを現実にするために必要なこと」を開催致しました。医師として、かつては政治家として活躍された山中光茂氏を講師にお招きし、初のオンライン上での対外例会となりました。他者の価値観に寄り添う視点を共有するなど学びの多い事業となりましたが、やはり、対面していないなかでオブザーバーの方々に青年会議所の魅力を伝え、会員拡大に結び付けることは容易ではないです。今後もオンライン開催をする場合には、是非この経験を活かし、会員拡大へと繋いでいただきたいと思います。また、12月例会は開催可否も含めて議論してきたなかで、卒業生9名をしっかりと送り出すと共に、プレジデンシャルリースを、42代理事長予定者堀木修吾君へ継承するために、開催を決断させていただきました。12月第一例会「ファイナル例会」並びに「卒業式」と題し、例年とは異なる開催内容となり開催直前まで苦慮しておりましたが、しっかりと歴史と伝統を継承し、次年度理事長予定者の思いを、OB会長をはじめとする先輩諸兄姉に発信し、卒業生を労い、祝すことが出来ました。コロナ禍というなかでの現地開催に賛同していただき最大限の努力をしていただきました理事役員の皆様に心より感謝しております。私自身が英姿颯爽な人財へと成長出来たかは自己判断出来ません。ですが、卒業生のスピーチや勇ましい姿を拝見したときに、とても輝いてみえました。そう感じたのは私だけでは無いはず

#### 【おわりに】

創立40周年を迎えるにあたり、多くの試練や困難が待ち受けていることでしょう。しかし、我々は立ち止まってはられません。努力をしても失敗をすることはあります。努力は必ず実るものではありません。しかし、「成功」は約束されていなくても、努力をしたことによる「成長」は約束されています。前よりも「成長」した自分を思い描いて運動を展開してまいります。

所信にこのように述べさせていただきましたが、いざ2020年を迎えてみると、想定以上の試練や困難が降りかかりました。ですが、立ち止まらずに試行錯誤して挑戦し続けた結果、私たちはこの困難な状況でも運動を邁進し続けたことによる「成長」は出来たと感じております。2020年度、理事役員をはじめとするメンバーの皆さん、関係諸団体のご支援・ご協力、そしてOB会長菊間厚先輩をはじめとする先輩諸兄姉の皆様に支えられ理事長職を全うすることができました。私は、理事長という職を受けることによって、改めて自分の未熟さを知るとともに、いままでとは違う視点から、青年会議所の魅力や必要性を感じる事が出来ました。2021年度、私は卒業年度となりますが、青年会議所のなかで得た経験を次代へ引継ぎ、浦安青年会議所創立45周年へ向け更なる発展をしていけるよう、最終最

後まで精一杯活動していきます。結びとなりますが、2021年も多くの試練や困難が待ち受けていることでしょう。このようなときだからこそ、吉田松陰のような次代の先駆者となる人財が必要とされています。メンバーひとり一人が努力をして成長し、輝かしい人財溢れる団体となっていくことを祈念し、2020年度事業報告とさせていただきます。1年間ありがとうございました。